



丹波市の未来をえがく

～丹波市未来都市創造審議会 通信～

【第7号】2019年6月21日発行

会議の詳細は
丹波市ホームページ



丹波市未来都市創造審議会は、平成30年度に引き続き、丹波市の新しい都市構造のあり方「まちづくりビジョン」の策定に向けて、審議を継続して行います。

令和元年度の第1回審議会は、「まちづくりビジョン」のとりまとめに向けて、前回の審議会や市政懇談会、市民説明会での意見を踏まえて示された「まちづくりビジョン」の変更内容について審議を行いました。

■丹波市の新しい都市構造のあり方「まちづくりビジョン」素案についての主な意見

前回の審議会や市政懇談会、市民説明会などを経て、変更された「まちづくりビジョン」が示されました。字句修正や文章表現をわかりやすくする修正が中心で、方針や方向性については大きな変更はありませんでした。

審議会での主な意見としては以下の2点が出され、パブリックコメントの実施に向けて「まちづくりビジョン」をさらに充実した「原案」としてとりまとめることが合意されました。

○公共交通と道路網

- ・ウーバーという配車システムを検討することができないか。移動したい、病院に行きたい、買い物をしたいなど、自分が思い立った時に利用できるような移動システムの導入が検討できないか？

○観光振興と余暇の過ごし方

- ・観光にレクリエーションを含めればという意見により、「観光振興と余暇の過ごし方」に見出しを修正しているが、これからの地域振興の面において観光は非常に重要であり、観光による地域振興といった意味が少し薄れてしまった。

■パブリックコメント（意見・提案公募）を実施します！

「まちづくりビジョン」原案について、みなさんのご意見・ご提案をお聞かせください。

受付期間

令和元年6月24日(月)～7月26日(金)

「まちづくりビジョン」原案の閲覧

○丹波市役所（未来都市創造部 都市創造課）、各支所、各住民センター、ライフピアいちじま、中央図書館
○丹波市のホームページ (<https://www.city.tamba.lg.jp/>) でも閲覧できます。

ご意見・ご提案の提出先

○窓口持参 丹波市役所（未来都市創造部 都市創造課）、又は、各閲覧場所に設置している意見提出箱へ投函
○郵送 〒669-3692 兵庫県丹波市氷上町成松字甲賀1番地 丹波市 未来都市創造部 都市創造課 宛
○Eメール toshisouzou@city.tamba.lg.jp
○FAX 0795-82-5448

次回の丹波市未来都市創造審議会（第7回）の開催予定

- 日時 令和元年8月7日(水) 午後2時～
- 場所 柏原住民センター（丹波市柏原町柏原5528）
- その他 会議は傍聴できます。※第7回審議会をもって、審議会における審議を終了する見込みです。



■「未来を語る市民懇談会」及び「まちづくりビジョン市民説明会」開催状況の報告

未来を語る市政懇談会

平成 31 年 4 月

16 日（春日） 17 日（市島）

18 日（青垣） 24 日（柏原）

25 日（山南） 26 日（氷上）

19：00～

6 地域各会場

- ・市の施策や重点事業の進みぐあいの報告と市民の皆さんとの意見交換
- ・内容 1) 飛躍の丹波市元年 2019 主要施策について
2) 丹波市の財政状況について
3) 丹波市の新しい都市構造のあり方「まちづくりビジョン素案」の概要

○主な意見と回答

Q：持続可能な農村という視点での検討はないのか？

A：経営力のある農業が望ましいが、従として農業をされているのがコミュニティ作りには有用であり、丹波の地で楽しみながら農業をされる方も応援していきます。

Q：（交通の面で）高齢者でも住み続けられる丹波市にしてほしい。

A：公共交通全体のバランスをとりながら、福祉交通とあわせて利便性の向上をめざしていきます。

Q：人口が中心部に集中していくことが心配。

A：「住み慣れた地域で住み続ける」というもう一つの柱を持っています。公共交通を充実させていくことで、日常的な生活は住み慣れた地域で、必要に応じて中心部の都市機能を利用していくという暮らしを目指しています。

Q：市役所の庁舎を建てることは慎重に。

A：このビジョンで個別施設の位置を決定するものではありません。市役所本庁舎はあと 10 年ほどで耐用年数がきますが、大規模な改修をしてまで今の庁舎を使い続けるには課題も多く、今後も継続して検討します。

まちづくりビジョン市民説明会

令和元年 5 月 12 日

14：00～

春日文化ホール

- ・まちづくりビジョン（素案）に関する講演及び説明と市民の皆さんとの意見交換
- ・内容 講演 演題：『持続可能なまちづくりをめざして』
講師：関西学院大学 総合政策学部 教授 角野幸博 氏
説明 まちづくりビジョン（素案）について
丹波市未来都市創造部

○主な意見と回答

Q：地域包括ケアシステムについて、大切なことを説明いただきたい。

A：助け合いの中で困った時に、福祉の専門集団にどのようにつなげていくのかといったネットワークが一番大事です。

Q：20 年後のまちの姿を実現するために、どのような行政と市民の協働の姿を求められるのかといったことが今後の課題では？

A：まずは、現状認識を行うことが一番大切です。現状を直視し「どんなまちにしたいのか」という絵を描き、課題を明確にし、その解決のための行動を考えていくことが大切です。

Q：儲かる農業のプランがないと、就農したい人が農業を行えない。農業のビジョンを明確に打ち出さないといけない。

A：農村維持のためには、コミュニティを確保することが重要です。大規模農業とそれ以外の農業で暮らす人生の楽園的な暮らし方の代表例に、丹波市がなれば嬉しく思います。農の学校への入学者が、卒業後もそのまま地域に定着される取組みを意欲的に進めます。

